

日時：平成25年7月22日（月） 13:00～17:40
会場：一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター2階）
参加者：約300名

13:10～13:20 趣旨説明 川口 昭彦 大学評価・学位授与機構特任教授
13:20～14:05 基調講演Ⅰ「質保証への学生参画の理念と実践—ENQAの観点から—」
14:05～14:50 基調講演Ⅱ「QAAの事例—学生理事の立場から—」

冒頭、川口氏から高等教育という学びの場の主人公は、学習の主体である学生であり、学生は、教職員と協力して各機関における高等教育の質を向上させる責任を担っている、今回の大学評価フォーラムでは、学生参画による質保証に関して、欧州における歴史的背景、基本的考え方、その実施の実態を具体的に理解し、欧州諸国において質保証事業に参加した学生の経験を共有しながら、わが国における学生参画による教育改善の試みの事例報告も交えつつ、高等教育質保証の将来のあり方について議論を深めていきたいとの趣旨が述べられた。

続いて、欧州からの質保証分野における実務家や、実際に質保証事業に学生として参加経験のある講演者（Helka氏及びDan氏）から、これまで日本においては、高等教育の質保証における学生の役割の認識、学生の参画はかならずしも十分ではなく、これに対して、欧州諸国では、とりわけENQA（欧州高等教育質保証協会）による「欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン（ESG）」が質保証への学生の参画を明確に求めていることもあり、その制度設計、事業実施において学生は責任の一端を担い、重要な役割を果たしている等の報告がなされた。

15:05～16:15 グループセッション

セッション4 「これからの授業アンケートと生活実態調査」

大学の質向上には、内部質保証をはじめとした学内マネジメントにおける学生の役割を明確にしておくことが効果的であるとして、欧州における質保証と学内マネジメントへの学生参画の経験をもとに描かれたその全体像を出発点として、学生参画がもたらし得る新たな効果を探るものであった。

【感想】

フォーラムの内容とは少し離れるが、認証評価がスタートして、2サイクル目に入った。現に、本学も2014年度に2回目の評価を予定している（1回目の評価の際、事務担当者として、報告書の作成に関わらせていただいた）。また、評価が努力目標から義務化され、今となっては受審するのが当然という認識で定着してきているが、この7年（認証評価のルール等）あまり大きな変動はない。つまり評価はよくも悪くも定着（停滞）傾向に入っているのではないか。本年度は、次年度の受審を控え、報告書の完成等、重要な期間となるため、自己点検・内部質保証委員会ばかりではなく、全学での取り組みが求められる。